

プラント統合運営システム「J-Answer」による最適運営



いる。

しかし、個別に運營業務の自動化・効率化を行っても、最適な運営は実現できない。当社は運営全体を最適化すべく、個別に展開してきた各システムを連携し、運營業務全体の最適解を提供するプラント統合運営システム「J-Answer（ジェイアンサー）」を構築した。本稿ではJ-Answerのグラウンドデザインおよび構成要素となる運営システムの例を紹介する。

1) 運営データを

2. J-Answer による運營業務の全体最適化

2.1 廃棄物処理施設の最適な運営

廃棄物処理施設の運営では、施設の操業計画および機器の点検・補修計画の策定 計画に基づいた業務の遂行 必要に応じ計画の見直し、の ～ を繰り返し行っている。最適な運営の実現には、運営データを元に、ベテラン運転員の知見によらず最適な計画や運転条件（=全体最適解）を策定・補正する仕組みに加え、運転員の力量によらず都度最適な計画に沿った運転が遂行できる自動化技術が必要となる。

当社が目指す最適な運営は、資源【人、薬剤、補修工事等】に対する効果【安定操業、発電電力量等】の最大化であり、これは廃棄物処理施設運営の目指す酋倉を提供するためのプ

ラットホームシステムであり、複数の運営システムおよび保有データを相互連携する。主な構成機能は以下の3種類である。グラウンドデザインを図1に示す。

流量等)へ反映される。図3にBRA-INGの構成および制御概要を示す。

3.1.2 運転結果

BRA-ING導入施設では、自動で安定した焼却炉の燃焼制御が維持できている。ここではその運転結果を紹介する。

ある施設におけるBRA-ING導入前(2018年)と導入後

